

中学校の部活動の今後について



少子化の影響を受け、中学校部活動を取り巻く環境が大きく変化しています。

スポーツ庁及び文化庁では、令和4年に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定しました。これは、少子化の中でも将来にわたって生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保を目指し、学校部活動の在り方や新たな地域クラブ活動を整備するための必要な対応について示したものです。

現在、全国的に**中学校部活動の地域移行**という取組が行われています。これは、中学校部活動を学校単位での活動から、地域との連携・地域での活動へと移行するものです。



波佐見町においては、主に教職員が担ってきた学校を単位とした部活動としての位置づけから、**地域を単位とした社会体育・文化活動**として位置づけられます。

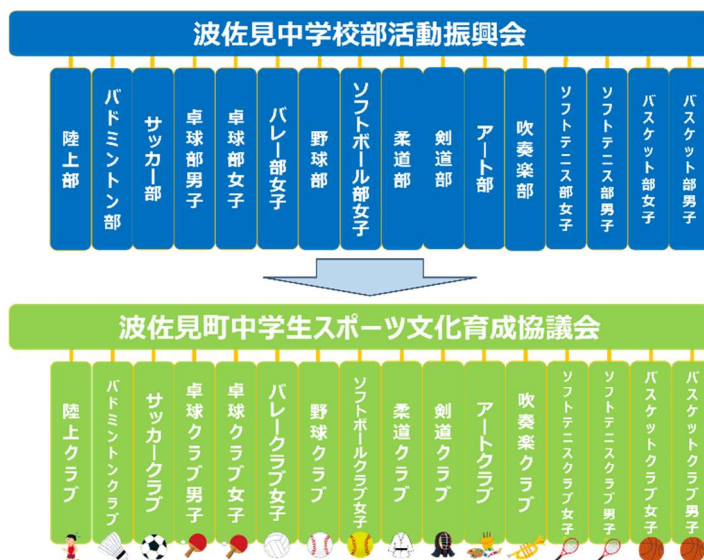
部活動地域移行を推進する背景として、

- ① 10年前と比べ波佐見中学校の生徒数が15%減少しており、令和5年度の出生児が中学校に入学する令和18年度には、さらに減少する見通しであることから、将来的に学校を単位とした部活動を運営・維持していくことが極めて困難な状況になることが想定される
- ② 競技や文化活動の専門性を有した教職員が不足している
- ③ これまで、部活動の指導が教職員のやりがいやボランティアに頼って行われてきたことなどが挙げられます。

それらを解消するために、令和6年12月19日に波佐見町中学生スポーツ文化育成協議会を設立し、現在の部活動から地域クラブへ移行できる体制を整え、**令和8年度から部活動から地域クラブへの完全移行**を目指します。

まず、令和7年1月からサッカー部と柔道部が地域クラブに移行しました。今後は、準備が整った部から移行ができるよう推進をしていきます。

部活動地域移行後の全体像



「教職員の携わり方」

① 競技や文化活動の専門性が高く、経験豊富な教職員が、今後も地域クラブの指導者として深く活動に携っていただくことは可能です。

② 教職員は地域クラブの指導者として指導に携わらないという選択肢ができます。

なお、各種補助制度や施設利用の運用は、これまで部活動で利用されていた制度・運用から変更はありません。

(問合せ先)

波佐見町教育委員会 社会教育班
☎(80) 6668